

課題 次の A, B の2問の中から1つを選び、日本語か英語で答えなさい。回答は、ワープロまたは手書きで作成し、A4 用紙3枚程度に収めること。

A. 社会的ジレンマ状況における個人の行動について、以下の質問に答えなさい。

- (1) 個人 A が他者の影響を受けない状況にある場合、協力行動と非協力行動が生じるメカニズムを合理的選択理論に即して説明しなさい。
- (2) 個人 B が集団に属し、その集団が社会的ジレンマ状況にあるとする。そのような状況のなかで協力行動を示す人物 C が集団内に存在する場合、個人 B の行動傾向を説明しなさい。その際、ソーシャル・キャピタルについては、負の影響が生じないものとして考慮すること。
- (3) (2) の状況において、ソーシャル・キャピタルが極めて高かった場合には、ソーシャル・キャピタルの負の影響が生じる可能性がある。そのような負の影響が生じた状況のなかで、個人 B が自己の本心とは異なる協力的態度を示したとする。そのような場合の個人 B の態度形成のメカニズムについて、「認知的不協和」という用語を用いて説明しなさい。

B. タイプ A とタイプ B の2つのタイプの労働者が、それぞれ p と $1-p$ の割合で存在する労働市場を考える。タイプ A の労働者は教育水準 e を得るために $c_A(e) = 2e + 1$ 、タイプ B の労働者は教育水準 e を得るために $c_B(e) = e + 2$ の教育費用が必要であるとする。いま、ある財を生産する全ての企業の生産関数が、 $y = 2l_A + 7l_B$ であるとする。ただし、 l_A と l_B は、それぞれタイプ A とタイプ B の労働者の雇人数である。財の市場価格は1である。労働市場は競争的で、労働者は賃金から教育費用を除いた収入を最大化するように行動する。このとき、以下の (1) から (3) の間に答えなさい。回答にあたっては、導出の過程も詳しく説明しなさい。

- (1) 全ての企業が労働者のタイプを事前を知ることができず、全員に同じ賃金を支払うものとする。このとき、賃金はいくらになるか。
- (2) 企業が労働者の教育水準を知ることができ、教育水準が e^* 以上の労働者には賃金7を、 e^* 未満の労働者には賃金2を支払うとする。このとき、 e^* をどのような範囲に設定すれば、タイプ A の労働者が e^* 未満の教育を受け、タイプ B の労働者が e^* 以上の教育を受けるようになるか。
- (3) タイプ B の労働者の収入が (1) のときよりも (2) のときの方が大きくなるのは、 p がどのような範囲の場合か。